外国語教育だより 平成３０年４月１３日発行　第５号　福島県教育庁義務教育課

English Wind

小学校全教職員及び
中学校英語科担当教員配付

英語教育の風

1 はじめに　～笑顔で新たな外国語教育をはじめよう～

いよいよ平成３０年度が始まりました。小学校、中学校ともに、新学習指導要領の移行期間である本年度は、ＰＤＣＡサイクルによる教育活動の改善に向けて、重要な一年となります。また、今回の学習指導要領の改訂において、とりわけ外国語教育の改訂内容については大改革といわれています。特に小学校おける外国語教育の早期化及び教科化は、誰も足を踏み入れたことのない新たな挑戦であるともいえます。先生方と子どもたちの新たな挑戦に向けて、次の３点を大切にしたいと考えます。みんなで挑戦していきましょう。

１つ目は、**目の前の子どもたちを第一に**／教育課程、移行措置、デジタル教材や新教材のことなど、様々な心配があるかもしれません。そんな時は原点に立ち返り、目の前の子どもたちのことを第一に考えて、授業づくりに努めていきましょう。大切なものは、いつも子どもたちとともにあります。

２つ目は、**できることからはじめよう**／英語で話すことが苦手、デジタル教材の扱いが苦手、モデル授業のようにはうまくできないなど、多くの不安があるかもしれません。そんな時は、できることからはじめていきましょう。（大切な部分や話せる部分だけでも英語で話す、導入の動画部分だけはデジタル教材を使ってみる、部分だけでもモデル授業を参考にして実践する。など。）

３つ目は、**笑顔で楽しもう**／心配や不安があると、ついつい笑顔が消えてしまうものです。子どもたちの笑顔は、先生方の笑顔から生まれます。小学校の先生方の英語を楽しむ姿勢とそこから生まれる笑顔が、英語が好きな子どもたちを育てます。

平成３０年度、ふくしまの外国語教育の新たな挑戦が始まります。

The Sky is the Limit.（可能性は無限大）

2 様々な形で外国語教育を充実させます

平成３０年３月２３日付けで「ふくしま小学校外国語教育推進プラン（確定版）」を各校にお送りいたしました。県教育委員会として、各小学校及び各市町村教育委員会を支援する具体的方策をまとめたものです。プランには記すことができなかった情報を、以下に補足します。

（１）外部専門機関と連携した英語指導力向上事業（文部科学省）

平成３０年度より、会津管内において、小・中・高連携を図るモデル地区として研究実践を行います。小学校は会津若松市立城西小学校、中学校は会津若松市立第三中学校、高等学校は福島県立葵高等学校となります。

（２）グローバル人材を育む小中連携英語教育推進事業（義務教育課・文部科学省）

平成２８年度より、双葉地区８町村において、インターネットを活用したライブ授業を中心に実践を行っています。「英語 DAY」の設定など、各中学校区での特徴ある外国語教育の取組が充実しています。

（３）中山間地域インターネット活用学力向上支援事業（義務教育課）

平成２７年度より、南会津管内の４町村の中学校において、インターネットを活用したライブ授業やネイティブスピーカーによる学習支援などを展開しています。

Q11：どのように授業を進めればよいか教えてください。

小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　外国語編には、どのように授業を進めればよいかについて、以下のようにまとめられています。また、中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　外国語編にも同様の記載が見られます。

外国語教育における学習過程としては、

①　設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。

②　目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。

③　目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。

④　言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。

といった流れの中で、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、「思考力、判断力、表現力等」を高めていくことが大切になる。

大切なキーワードは、以下の４つです。

①目的･場面･状況　**②見通し**　**③言語活動**　**④まとめと振り返り**

また、上記③に関連して、小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　外国語編には、以下のような記載があります。

言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、児童が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、**具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにする**ことが必要である。

これらの内容から分かることは、例えば「これから I like を使って、好きなものを伝え合いますよ」というように、使用する言語材料を授業者が決めてしまう言語活動ではなく、「これからお互いに自己紹介をします。どんなことを伝え合いますか」「そのためにはどんな表現ができそうですか」などと、**児童自身に言語材料を取捨選択させる場面を設定した言語活動にすること**が大切なポイントの１つになります。

このような取組は、中学校の英語科担当の先生方が、いわゆる「タスク活動」と呼んでいる言語活動のことを指します。生徒たちに「使える英語」を学習する場を提供するためには、有効な教授法と言われています。同じ中学校区の先生方の教材研究の蓄積を、小学校の先生方と共有できるようにすることも、大切なポイントになります。

●　質の高い言語活動を行う際の主な留意点　●

- □　具体的（目的･場面･状況）な課題等を設定しているか
- □　必要な言語材料を取捨選択させているか